

特集

ふるさと大垣の

平成を振り返る



2期目の当選後、登庁する小倉前市長(平成元年)



市民プールオープン(平成元年)



たくさんの方の来館者でにぎわったサイトピアセンター学習館(平成4年)



情報工房オープン(平成10年)



情報工房でIT機器に親しむ(平成10年)



初登庁する小川市長(平成13年)



大垣市・上石津町・墨俣町



深戦関ヶ原大垣博(平成12年)



奥の細道むすびの地記念館オープン(平成24年)

昭 和64年1月7日、昭和天皇が崩御され、時代は新しく「平成」となりました。

平成元年、大垣市では、4月に2期目の当選を果たした小倉満前市長が新たな市政をスタートしたほか、6月には市民プールがオープンしました。また、平成の初期には、サイトピアセンター学習館をはじめ、武道館、情報工房などの施設が建設されました。

その後、平成12年には、「決戦関ヶ原大垣博」を199日間にわたって大垣公園一帯で開催。約75万人が訪れる一大イベントとなりました。

バブル経済崩壊による厳しい社会情勢だったこの頃。大垣市は、明るい未来を展望できるよう、活力あるまちづくりを進め、21世紀という新たな時代へと歩みを進めました。

21 世紀の幕が開けた平成13年、現在の小第13代目の市長として市政をスタートのふれあうまちづくりの推進を目指し

平成14年には、市がNPO法人に運営を委託「ザ」がオープン。その後、ボランティアの皆さんを行う「さわやか見守りEye」がスタートした体となって「レジ袋ないない大運動会」を展開な分野で市民・企業・行政が協働し、魅力あるした。

平成18年には、上石津町・墨俣町と合併。そまで守り続けてきた伝統や文化、豊かな自然を万6,000人の「新・大垣市」として、新しい歴史しました。

私たちが生きてきた“平成”という時代。今回の特集では、私たちとともに歩み発展してきた、わがまち大垣の平成30年間の主な出来事を振り返ります。

子育て環境の充実

平成10年代には、地域子育て支援センターや子育てサロン、子育て交流プラザなどを相次いで開設。地域で子育てしやすい環境整備を進めました。その後、平成20年代には、子ども医療費助成の対象を高校生世代まで広げたほか、保育園保育料などの軽減措置を拡大し、子育て世帯の経済的負担をより和らげる施策を展開しました。また、平成28年にはキッズピアおおがき子育て支援センターを開設するなど、「子育て日本一」のまちを目指し、支援施策を進めています。



子育て交流プラザ(平成14年)

災害に備えて

市内では、平成14・16年の台風の影響により大きな浸水被害が発生しました。そうした中、江西川の河川改修工事や排水機場の整備など、被害が発生した地域の治水対策を積極的に推進しました。また近年では、平成23年の東日本大震災をはじめとする大規模災害が多発。同震災の教訓を生かし、他市区と災害協定を締結し応援体制の強化を図るほか、避難所となる施設の耐震化、市民の防災意識を高める防災講座=写真=を開催するなど、「安心・安全のまちづくり」を進めています。



防災出前講座

発展の軌跡

ここでは、時代の変化に対応したさまざまな取り組みについて紹介します。